

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽 (南ユニット)		
所在地	愛知県半田市椎ノ木町4丁目13-2		
自己評価作成日	令和1年10月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373500145-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和1年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じられる行事を豊富に行っている。 ・行事に合わせてブログを更新し、外部にも発信を行っている。 ・畑をやっており、種まきから収穫、調理を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>以前は牧場であった高台の広い敷地に事業所はある。上品な和風の平屋建てに回廊風のウッドデッキがあり、周りの庭木が秋らしい風情を漂わせている。建物の裏手には広い畑があり、季節に合わせて種まきから収穫、調理、そして美味しく食べるまでのサイクルを日々の生活の中に取り込んでいる。現在は専属の職員が主作業を行い、入居者は草取りや水まき、収穫などをその時々自身の状況に合わせて職員と共に無理のない程度に手伝い、季節感や達成感を味わっている。この秋は栗の実がたくさん取れ栗羊羹や栗ご飯を堪能したとホーム便りにあるなど、季節の行事やイベントを豊富に取り入れ入居者や家族に喜ばれている。ブログを行事に合わせて更新し、施設の様子を外部に向けて発信している。冬季はインフルエンザ対策にも留意し、大型の空気清浄加湿器を導入する等入居者の医療面や安全にも配慮している。入居者は温かい日差しの注ぐ居間でテレビを観たり、談笑しながらゆったり過ごしている。電子ピアノが置かれ、時には入居者が弾き皆で歌を歌い楽しんでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2372400552					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、「安心・信頼・人財」に基づき、身近な地域で人が自立した生活を送れるよう支援している。	法人の理念を基本にして、法人内の委員会で作成されたチェックリストを用いて理念を理解し実行出来るようにしている。皆で話し合っって作った事業所の理念は玄関に掲げてある。	事業所独自の理念は玄関に掲げてあるが、職員間でこの理念を共有し実践につなげているか、今一度振り返りを行われることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや文化祭に参加している。	町内会に加入し回覧板などから地域情報を得て地域行事に参加している。家族と共に盆踊りや祭りに参加したり、地域の文化祭では作品を展示している。当番制で回ってくるごみ置き場の清掃も入居者と共に行っている。事業所で行う夏祭りに地域の方も招待しているが参加は少ない。中学生の職場体験や地域ボランティアを多く受け入れている。の	夏祭り等事業所のイベント案内を出しているが地域住民の参加は少ない。地域との繋がりを深めるチャンスであり、事業所や認知症に対する啓蒙の機会でもあるので、散歩時などに合う人に声をかけるなど参加を呼び掛ける活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の際には、近所の方に声をかけ、参加を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族や市職員の方のご意見やアドバイスを受け、サービス向上、改善に努めている。	入居者家族や市職員、法人高齢統括、施設職員が出席して年6回開催しているが、地域代表や民生児童委員等の出席がない。運営やサービスの実際、行事の様子などをプロジェクターを使用して分かり易く報告をしている。出席者からの意見や要望はその場で話し合ったり、職員間で話し合いサービス向上に活かしている。	地域密着型の施設なので、地域情報を得たり、施設の様子を知ってもらう機会でもあるので、地域代表や民生児童委員等をメンバーに入れて出席していただくことを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、助言を受けている。会議録等はメールやFAXを使わず、直接市役所へ持って行く。	毎回運営推進会議への市職の出席があり、情報や指導、アドバイス等を受けている。また、介護保険関係の申請代行、法律や加算関係などで窓口を訪れ指導やアドバイスを受けている。運営推進会議録は直接持参している。市主催の研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置、定期的な研修を行っている。	「身体拘束適正化委員会」は3か月毎に行い、運営推進会議で報告をしている。法人内で年1回、ホーム内では2か月に1回研修を行い、身体拘束についての理解と周知を図っている。ユーチューブの動画を利用した研修を取り入れたり、スピーチロック等日常のケアの中ではお互いに注意し合い拘束感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置、定期的な研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修等に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や内容の変更があった際は書面だけでなく、口頭でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見を聞き、反映に努めている。	入居者からは日々の生活の中から思いや意向を聞き、家族からは面会時や行事の時、運営推進会議等で意見や要望を聞いている。「家族の意見記入ノート」に記録し、職員間で共有したり、カンファレンスで話し合いサービス向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課や職員会議等で意見を聞き、反映に努めている。	日常の業務の中や申し送り時に、意見や提案は活発に出され話し合われている。実施可能なものはその場で取り入れる試みを行っている。改善された事項は、職員に周知を図り、ケアに活かしている。人事考課は年2回行われ、個人的な意見や要望、悩みなどじっくり話せる機会を設けている。出された意見や要望は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年二回行い、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加したり、介護福祉士の取得にも積極的にすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他の施設に見学に行ったり、行事などの応援に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には見学に来て頂き、施設の雰囲気を感じて頂いている。面接も行き、不安な事が少しでも無くなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族の要望や本人の希望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	板山らく楽でどう過ごしていきたいかを相談しながらケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは自分でやれるよう、声掛けや介助を工夫に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を募っている。また、個別の相談にも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なボランティアの来所により、馴染みの関係が築けるよう努めている。	以前の職場のゲートボール仲間が遊びに来たり、カラオケ仲間とカラオケを楽しまれる方もいる。定期的に来所されるボランティアや八百屋、ガス屋など訪れる業者とも馴染みになっている。馴染みの美容院や墓参り、お正月の外泊、買い物などは家族の協力を得ている。来所される方々との関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席に配慮したり、レクリエーション等で協力合ったりして友好な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠退所がほとんどなので、あまり関係性が継続はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で本人の意向を話し合い、ケアプランに反映している。	普段の生活の中での会話や行動、表情から思いや意向の把握をしている。新聞やチラシを見ながらの日常会話から情報を得たり、ボランティアの方から情報を得ることもある。得た情報は記録し、随時職員間で話し合い本人の思いに添えるようにしている。意思疎通が困難な場合は家族の協力を得たり、生活歴を参考にして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を個人記録に残し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で本人や家族の意向を話し合い、ケアプランに反映している。	毎月のカンファレンスで情報交換を行い、モニタリングをしている。本人や家族の意向や要望をもとに、入居者担当やユニットリーダー、看護師、ケアマネジャーがチームとなり介護計画を作成している。計画の見直しは年1回であるが、状況の変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入や、全体だけでなくユニット毎の連絡ノートなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診で基本的には納得いただいている。	入居時にかかりつけ医か協力医かの希望を聞いている。定期的な往診があることから協力医に変更される方もある。歯科医の訪問診療や訪問看護師による週1回の健康管理も行われている。診察結果は家族に報告をしている。精神科や眼科等専門医の受診は家族の協力を得ているが困難な場合は支援をしている。受診結果は、職員で周知しケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	困ったことがあればすぐに看護師へ報告するようにし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院の際は家族や病院と定期的に連絡を取りながら情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指定書にて重度化した際の同意書を取っている。早い段階から家族への連絡を行い、対応を一緒に考えている。	入居時に事前指定書に基づき説明をし、意向や希望を確認している。状態に変化があった場合は、早い段階から家族や医療関係者、職員等で話し合い、「事業所で出来ること出来ないこと」を十分に話し合いながら対応に努めている。看取り介護に入る場合は医師が家族に説明をし同意を得ている。本人にとって最善のケアが出来るように介護計画を立て情報を共有し支援に努めている。法人による研修が年1回あり、該当者がした場合再度研修を行っている。看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修へ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	年2回の火災による避難訓練を昼と夜間想定で行っている。内1回は、消防職員立会いの下で行い指導やアドバイスを受けている。備蓄は、水や食料品が入居者と職員分を含めて1週間分とカセットコンロなどを準備している。地域環境の為か、地域との協力体制が取り難い所がある。	高台に立地しており、地域の水害時の避難拠点となることが考えられる。地域住民の受け入れが出来る事業所の利点を活かした地域貢献をアピールすることにより、地域との繋がりを深めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇委員会への参加。マニュアルの活用。	これまでの生き方を尊重し、個々の生活スタイルを守り、より安定した生活が送れるように支援している。法人内の接遇委員会から出される、人格の尊重などについてのチェックリストを活用して、具体的な行動を確認している。親しさと馴れ馴れしさを意識し、相手が不快にならない言葉使いを心がけケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出てきた希望を、誕生日やレクリエーション等で叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等も無理強いせず、本人の希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物へ出かけたり、出張で服屋さんに来て頂き、おしゃれが出来る様支援している。散髪に二カ月に一回来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で種まきから収穫まで一緒に行い、調理も手伝って頂いている。	メニューは法人の管理栄養士が作ったものを参考に季節感や入居者の希望を取り入れて、職員が作成している。食材は業者委託であるが、敷地内で収穫された野菜や果実なども食卓にぎわせている。入居者は保有能力に合わせて調理や盛り付け、後片づけなどを職員と一緒にやっている。ボランティアと作る手作りおやつや喫茶ツアー、外食ツアーなども楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて食事や水分の摂取量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。痛み等があれば歯科に相談し、治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合ったパットやオムツを使用している。排泄のパターンを掴み、トイレ誘導、パット交換を行っている。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を優先し自立支援に向けた取り組みを行っている。夜間は離床センサーを利用したり、声掛けをするが無理をせず、睡眠を優先している。ひとり一人にあったパットやリビリパンツ、オムツを使用している。排泄の失敗がある時もプライバシーに配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にヨーグルトや牛乳を提供している。排便確認を毎日行い、下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員不足により、希望に沿えないことがある。週に3回を目安としているが2回になることもある。	現在は週2回の入浴支援になっている。個浴のほか機械浴も設置されており、身体状況に合わせて安楽に入浴が出来る環境が整えられている。入浴出来ない時は清潔保持のため陰部洗浄を行っている。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用し入浴を楽しめるよう配慮している。入浴拒否の方も、週1回は入浴できるよう日時を変えたり介助者を変えるなどの工夫をしている。冬季はヒートショック予防に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状態により日中に休養をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットを職員が行い、目的等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を生かして調理や編み物等をやって頂いている。花を育てたり、メダカのお世話をやりがいをもちて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的ではなく、行事や誕生日、家族との外出で希望に沿えるよう努めている。	気候の良い時は日々散歩に出かけている。花を見たり近くの薬局や食材を買いにスーパーへ出かけたり、畑の草むしりやウッドデッキでの散歩、メダカの餌やりや洗濯物干し等外気に触れる機会を多く取り入れている。季節の行事としては梅や桜、彼岸花を見に行き季節の移り変わりを楽しんでいる。家族の協力を得て希望の場所へ行かれる方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次ぐことはあるが、自由に電話をする事は無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節に沿った壁面飾りを行い、季節感を出している。	木造で天井が高く採光も風通しもよく、周りがウッドデッキで取り囲まれている。周りの植木が季節を感じさせやすさを与えてくれる。所々に椅子が置かれ憩いのひと時を過ごすことが出来る。居間と食堂がワンフロアとなっており、入居者の動きが一目で見渡せる。居間や廊下には季節に沿った飾りが飾られ、秋から冬にかけてはインフルエンザ予防のために大型の空気清浄加湿器が備えられている。臭いやテレビの音量等にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大体の定位置がそれぞれできており、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の物は基本的に持ち込んで頂いている。入所前に使用していた物を持ち込んで頂く工夫をしている。	居室は和室と洋室があり、ベットやエアコン、カーテン、クローゼット、洗面台が設置されている。冬季は加湿器を設置している。入居時には使い慣れた小物や家具を持ち込み、写真や手作りの作品を飾ったり、仏壇を置かれている方もいる。職員と一緒に掃除をする方もあり、清潔で居心地の良い自分の部屋作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉の色を居室、トイレ、ふろ場と分けていたり、個室には本人の名前をつけさせて頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽 (北ユニット)		
所在地	愛知県半田市椎ノ木町4丁目13-2		
自己評価作成日	令和1年10月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373500145-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和1年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じられる行事を豊富に行っている。 ・行事に合わせてブログを更新し、外部にも発信を行っている。 ・畑をやっており、種まきから収穫、調理を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>以前は牧場であった高台の広い敷地に事業所はある。上品な和風の平屋建てに回廊風のウッドデッキがあり、周りの庭木が秋らしい風情を漂わせている。建物の裏手には広い畑があり、季節に合わせて種まきから収穫、調理、そして美味しく食べるまでのサイクルを日々の生活の中に取り込んでいる。現在は専属の職員が主作業を行い、入居者は草取りや水まき、収穫などをその時々自身の状況に合わせて職員と共に無理のない程度に手伝い、季節感や達成感を味わっている。この秋は栗の実がたくさん取れ栗羊羹や栗ご飯を堪能したとホーム便りにあるなど、季節の行事やイベントを豊富に取り入れ入居者や家族に喜ばれている。ブログを行事に合わせて更新し、施設の様子を外部に向けて発信している。冬季はインフルエンザ対策にも留意し、大型の空気清浄加湿器を導入する等入居者の医療面や安全にも配慮している。入居者は温かい日差しの注ぐ居間でテレビを観たり、談笑しながらゆったり過ごしている。電子ピアノが置かれ、時には入居者が弾き皆で歌を歌い楽しんでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2372400552					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、「安心・信頼・人財」に基づき、身近な地域で人が自立した生活を送れるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや文化祭に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の際には、近所の方に声をかけ、参加を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族や市職員の方のご意見やアドバイスを受け、サービス向上、改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、助言を受けている。会議録等はメールやFAXを使わず、直接市役所へ持って行く。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置、定期的な研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置、定期的な研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修等に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や内容の変更があった際は書面だけでなく、口頭でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見を聞き、反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課や職員会議等で意見を聞き、反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年二回行い、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加したり、介護福祉士の取得にも積極的にすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他の施設に見学に行ったり、行事などの応援に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には見学に来て頂き、施設の雰囲気を感じて頂いている。面接も行き、不安な事が少しでも無くなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族の要望や本人の希望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	板山らく楽でどう過ごしていきたいかを相談しながらケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは自分でやるよう、声掛けや介助を工夫に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を募っている。また、個別の相談にも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なボランティアの来所により、馴染みの関係が築けるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席に配慮したり、レクリエーション等で協力し合ったりして友好的関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠退所がほとんどなので、あまり関係性が継続はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で本人の意向を話し合い、ケアプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を個人記録に残し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で本人や家族の意向を話し合い、ケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入や、全体だけでなくユニット毎の連絡ノートなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診で基本的には納得いただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	困ったことがあればすぐに看護師へ報告するようにし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族や病院と定期的に連絡を取りながら情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指定書にて重度化した際の同意書を取っている。早い段階から家族への連絡を行い、対応を一緒に考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修へ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇委員会への参加。マニュアルの活用。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出てきた希望を、誕生日やレクリエーション等で叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等も無理強いせず、本人の希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物へ出かけたり、出張で服屋さんに来て頂き、おしゃれが出来る様支援している。散髪に二カ月に一回来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で種まきから収穫まで一緒に行い、調理も手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて食事や水分の摂取量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。痛み等があれば歯科に相談し、治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合ったパットやオムツを使用している。排泄のパターンを掴み、トイレ誘導、パット交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にヨーグルトや牛乳を提供している。排便確認を毎日行い、下剤の調整をしている。	いこいの	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員不足により、希望に沿えないことがある。週に3回を目安としているが2回になることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状態により日中に休養をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットを職員が行い、目的等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を生かして調理や編み物等やっけて頂いている。花を育てたり、メダカのお世話をやりがいを持って行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的ではなく、行事や誕生日、家族との外出で希望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次ぐことはあるが、自由に電話をする事は無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節に沿った壁面飾りを行い、季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大体の定位置がそれぞれできており、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の物は基本的に持ち込んで頂いている。入所前に使用していた物を持ち込んで頂く工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉の色を居室、トイレ、ふる場と分けていたり、個室には本人の名前をつけさせて頂いている。		